

心豊かでたくましい児童生徒を育む

小中一貫教育をめざして

シリーズ えでゆれば

vol.16

皆さまのご質問にお答えします

平成25年4月に施設一体型の小中一貫教育学校が開校します。

今回は、この開校にあたって、皆さま方からお寄せいただいた「あれはどうなるの？これはどうするの？」というご質問について、Q&Aでまとめました。

児童生徒数の増加による 通学に関して

Q 現在、三戸小学校の校門付近や通学路は、登下校時刻には児童を送迎する家用車で非常に混雑しています。中学生まで増えると



県道沿いの駐車場予定地

安全確保の面で心配です。何か対策は考えていますか？

A 現時点で予想される開校時の児童生徒数は653名です。

この人数は約20年前の三戸小学校（目時小・北小との統合前）の児童数と同程度ですが、町では登下校の安全確保のため、図1のとおり平成26年度に整備する駐車場予定地を仮整備し、利用を開始します。

これにより、平成24年4月の開校時には、スクールバスの転回スペースと子どもたちが安全に乗降できる駐車場が確保されます。



図1 駐車場と学校の位置関係



城山公園入口の五叉路周辺の様子

Q 通学路、特に城山公園入口の五叉路周辺や歩道の整備が十分でないところが見受けられ、児童生徒数の増加により登下校時の安全確保が気になります。何か対策は考えていますか？

A 通学路については、県道櫛引上名久井三戸線を管理する青森県に、五叉路の改良と歩道の整備を要望しているところです。

町では、前述の駐車場付近での安全確保のため、交通整理員の必要性を検討しています。そのほかにも子どもたちの安全確保のために様々な対策を講じてまいります。

Q 通学に路線バスを利用するとバス料金がかるため、自家用車による送迎が増えているのだと思います。無料のスクールバスやバス運賃の補助も検討してはいかがでしょうか？

A 現在のスクールバスは、学校の統廃合により徒歩通学が困難な児童生徒の通学手段として運行しています。また、路線バスの運賃については、1～3月の冬期間・3年生までの低学年・通学距離2km以上という限定された条件で、定期券代の実費を補助しています。

先日、保護者アンケートで小中一貫教育学校への通学手段などを伺い、様々なご意見をいただきました。

これらをふまえ、一貫校の開校に向けた交通渋滞の緩和策として、よりよい通学のあり方を検討してまいります。

制服やジャージ、式典や行事など、開校に伴う変化について

Q 制服やジャージのデザインは変わるのでしょうか？ 全てを買い替えるのであれば、相当な出費が予想されるだけに心配です。

A 小中一貫教育の先進地の例では、新たに一貫校としての制服をつくり、1年生または5年生から着用している例も多く見られます。三戸町の場合は家庭の負担も考慮し、施設分離の連携校である斗川小学校を含め、当面は現在のままの制服・ジャージを着用することとしております。

三戸町の場合は家庭の負担も考慮し、施設分離の連携校である斗川小学校を含め、当面は現在のままの制服・ジャージを着用することとしております。

Q 入学式や卒業式などの式典や、運動会・体育祭、学習発表会・文化祭などの行事は、全て小中合同で行うことになるのでしょうか？

A 全国の例もさまざま、合同で行っているところもあれば別々で行っているところもあります。現在、1つの校舎となる三戸小学校・三戸中学校の関係者による検討が進められています。開校時点では体育館や運動場などの条件が整っていないため、全ての行事を合同で行うことは難しい面もありますが、将来的に合同で行えるよう検討を進めてまいります。

Q 学校名や校歌・校章はどうなるのでしょうか？

A 先日、町内全域に学園名を募集するチラシを配付いたしました。その中でもお伝えしています。

が、三戸小学校・斗川小学校・三戸中学校の学校名は残ります。今回募集したのはこれら3つの学校を総称する呼び名となります。今後、ご応募いただいた内容を参考に、学園名として決定することになります。

校歌は三戸小学校の校歌を統一校歌として採用することにしていきます。この場合も三戸中学校の校歌がなくなるわけではありません。連携型の斗川小学校では、現在の校歌を引き続き歌うこととなります。

校章は南部家の定紋(家紋)である向鶴をモチーフに、専門家にデザイン案の作成を依頼しています。

これらの諸課題は、教員・保護者の代表・後援会などの学校関係者と有識者により組織された開校委員会で、ご意見をいただきながら検討を進めています。今後も、検討の状況は本誌面を通じてお伝えしてまいります。